

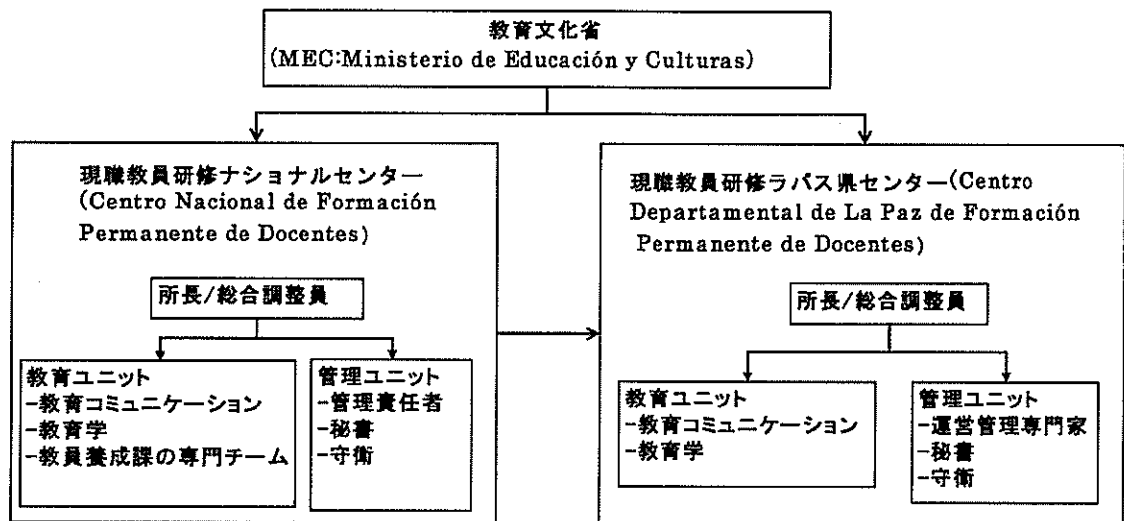
2-3 サイトの状況と問題点

2-3-1 実施体制

当初要請における実施体制は以下のとおりである。

(1) 組織体制

当初要請の組織は、教育省が管轄するナショナルセンターおよび県教育センターからなる（図7参照）。また、これらセンターには付属初等学校を併設する。



資料) 要請書より作成

図7 当初要請の組織体制

(2) 予算

要請金額は、ナショナルセンター・県センターの建設費と機材整備費として 5,929,290 US\$, 付属初等学校の整備費として 723,750 US\$, 合計 6,653,040 US\$である。

また、センター要員の給与・機材維持費・光熱水道費などの経常支出は国庫および国際援助による資金から支出し、イベント開催の食費や参加者の使用する消耗品などの不定（変動）費は予算を計上し、研修参加の交通費・日当宿泊費は参加者負担または予算を計上する。

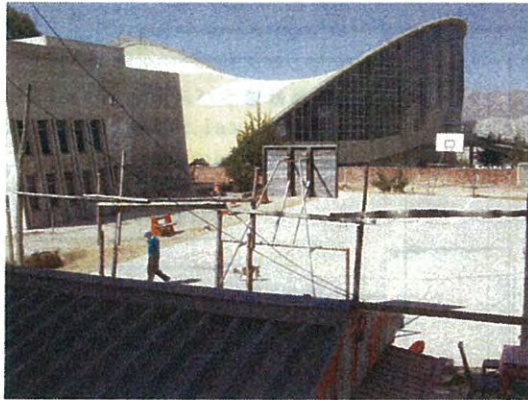
(3) 要員・技術レベル

ナショナルセンターの教育ユニットには、教育文化省教員養成課の専門家を配置し、ラパス県センターの教育ユニットには INFOPER の専門家を配置し、センターの各業務を担当する。

2-3-2 要請サイトの概況

(1) 当初要請の候補サイト

当初要請のセンター建設候補サイトは、ラパス市のシモンボリバル高等師範学校（INS: Institución Normal Superior）敷地内のスポーツグラウンドであった。当サイトに中央センター（CNFPD: Centro Nacional de Formación Permanente de Docentes）、県センター（CDFPD: Centro Departamentales de Formación Permanente de Docentes）および付属小学校（Escuela adjunta）を建設する計画であった。



当初要請のセンター建設候補地であるシモンボリバル高等師範学校のスポーツグラウンド。



同建設候補地。

(2) 修正要請の候補サイト

当初要請は前政権時に策定されたものであり、現政権は要請内容を、中央集中研修方式から、全国各県で研修を実施するセンター網方式に変更した。これにともない、ラパス県のセンター建設候補地をシモンボリバル高等師範学校からエル・アルト市に変更した。その理由は次のとおりである。

- ① シモンボリバル高等師範学校は、学生自治が極めて強く、同校以外の機能をもつ施設の建設に反対する可能性が高い。また、建設が実施された場合でも、施設が同校学生に占有される恐れがある。
- ② ラパス市は過密状態で、シモンボリバル高等師範学校敷地以外に一定の面積を有するセンター建設候補地を確保できない。
- ③ エル・アルト市はラパス市とともに、ラパス県内のアルティプラーノ（高原地域）とユンガス地域（低地温暖地域）との交通の要衝であり、また、エル・アルト市には多くの現職教員が居住しているため研修の場所として利便性が高い。

教育文化省は、本調査団との要請内容についての協議を経て、修正要請を提出した（以降、要請内容およびサイトの記載は、修正要請である）。修正要請における現職教員研修センター建設候補サイトは表 22 のとおりである。

また、ラパス県、コチャバンバ県およびタリハ県の要請サイトについて現地踏

査の結果は2-3-3 から 2-3-5 のとおりである。

表 24 修正要請における現職教員研修センター建設候補地一覧

県(市)	センターのレベル	候補地	敷地面積	サイト位置および敷地状況	周辺の都市化およびインフラ状況	所有者
チュキサカ 県(スーク レ市)	県セン ター	1	600 m ²	Avenida Jaime Mendoza	完全に都市化	市
		2	400 m ²	Calle Canelas。Salón multifuncionalの改修を要請	完全に都市化	市
ラパス県 (エルアル ト市)	中央セン ターおよ び県セン ター	1	1,000 m ²	Distrito 5, zona Villa Ingenio, Unidad Vecinal 1 (Lado Parroquia Cristo Redentor)、敷地内に幼稚園3棟あり。	完全に都市化。電気、水道、下水およびガスあり。	市
		2	1,500 m ²	Distrito 5, zona Villa Ingenio, Unidad Vecinal 1 (Parada Minibus 313) al lado de la U.E. Antonio Paredes Candia、広いバスターミナルの一部がサイト。	完全に都市化。電気、水道、下水およびガスあり。	市
		3	2,500 m ²	Distrito 5, zona Villa Ingenio, Unidad Vecinal 1 al lado de la U.E. Antonio Paredes Candia、学校の隣接用地がサイト。	完全に都市化。電気、水道、下水およびガスあり。前面道路は未舗装。	市
		4	1) 600 m ² 2) 3,000 m ²	Distrito 4, zona San José de Yunguyo, al lado del Centro de Recursos Pedagógicos (CRP): Elizardo Perez、1)は三角形の敷地、2)はCRPに隣接した広大な敷地。	完全に都市化。電気、水道および下水あり。敷地へのアクセスは舗装道路で良好。	市
オルロ県	県セン ター	1	約 800 m ²	Ayacucho entre Pisagua y Antofagasta (zona este)	公共輸送、電気、水道あり。道路は未舗装。	県
		2	約 80 及び 100 m ²	Pagador esquina Aldama	公共輸送および基本サービスあり。	県
		3	280 m ²	Ex Pulperia COMIBOL, calle Petot	公共輸送および基本サービスあり。	不明
タリハ県	県セン ター	1	3,321 m ²	Av. Victo Pez E. 0227. INFOPER本部建物の改修を要請している。	完全に都市化。アクセスは良好。	県
		2	2,642 m ²	県庁先住民農業開発局 (Dirección de Desarrollo Campesino y Rural) のある敷地で、同開発局の建物が敷地の半分を占有している。	完全に都市化。アクセスは良好。	県
バンド県	県セン ター	1	2,000 m ²	Urbanización 6 de Junio (Villa Busch)	道路アクセス(2車線のアスファルト舗装)は良好。水道・電気なし。	市
サンタク ルース県	県セン ター	1	約 500 m ²	Distrito 5 Avenida Banzer y Beni	電気・水道あり。	不明
		2	約 500 m ²	Distrito 5 zona norte de la Avenida Alemana	電気・水道あり。	不明
ベニー県 (トリニ ダード市)	県セン ター	1	800~1,000 m ²	Barrio Nueva Trinidad (15 min. del centro)		不明
		2	約 2,500 m ²	Sin definir	基本サービスあり。	県
コチャバン バ県	県セン ター	1	約 3,000 m ²	サカバ市にある。Av. VillazonとAv. Chaparey間を結ぶ Av. Octaba沿いにある広大な敷地。近くに小学校あり。	水道・電気・下水あり。敷地の前面道路は未舗装。コチャバンバ市のINFOPERから車で約30分の地点。	市
		2	1,200 m ²	Entre Giovanni Boccacio y W. Shakespeare -Distrital Cercado 1。北部市教育事務所のあるサイト。敷地は斜面となっているため、建設有効面積は少ない。	公共輸送および基本サービスあり。高級住宅地内にあり、アクセスは良好。	市
		3	1,000 m ²	Entre calle Reverendo Maurice y Cayetano de la Llosa。近くにKoño Kono池があるサイト。敷地奥行は18 mしかなくセンター建設地としては狭い。	公共輸送および基本サービスあり。住宅地内にある。	不明
		4	500 m ²	Entre calle Luz Zegarra y Jorge Udaeta	公共輸送および基本サービスあり。	市
ポトシ県	県セン ター	1	約 300 m ²	Av. América s/n, parte posterior y lateral del edificio del SEDUCA	完全に都市化	県
		2	2,000 m ²	Ex Unidad Educativa 6 de Junio - Cantumarca	一部都市化	市
		3	2,000 m ²	Calle Colorados de Bolivia	一部都市化	市
		4	648 m ²	Calle Lucas Jaimes y Sucre	都市化	市

資料) RED DE CENTROS DE FORMACION PERMANENTE DE DOCENTES DIRECCION GENERAL DE GESTION DOCENTE. VICEMINISTERIO DE EDUCACION ESCOLARIZADA. ALTERNATIVA Y ALFABETIZACION. MEC. 2006/8/18

2-3-3 ラパス県の要請サイト状況

ラパス県のセンター建設候補地は、ラパス市に隣接するエル・アルト市にある 5ヶ所のサイトである。エル・アルト市はラパス国際空港があり、交通の要衝と位置づけられている。また、ラパス市の人口過密化のため、ラパス市の衛星都市として急速に市街地を拡大し、大ラパス都市圏の一角を構成している。

① 候補サイト No. 1

- a) 位置 : Distrito 5 , zona Villa Ingenio, Unidad Vecinal 1 (Lado Parroquia Cristo Redentor)
- b) 周辺状況 : サイトは公園に隣接している。周辺は住宅地で、電気、水道、下水およびガスは整備されている。
- c) 敷地面積・形状 : $40\text{m} \times 25\text{m} = 1,000\text{m}^2$ 。サイトは平坦であり、四周は壁に囲まれている。ただし、サイト内には 4 棟の建物があり、3 棟は幼稚園および 1 棟は倉庫である。
- d) 評価 : センターを新設する場合には、既存建物の解体撤去が必要である。また、センター建設地としては十分な面積とはいえない。



公園側のサイト入り口。2つの白い建物はサイト内にある幼稚園(左)と倉庫(右)。



サイト内の庭。左手前の建物は倉庫。奥にあるページュ色の壁の建物は幼稚園。

② 候補サイト No. 2

- a) 位置 : Distrito 5 , zona Villa Ingenio, Unidad Vecinal 1 (Parada Minibus 313) al lado de la U.E. Antonio Paredes Candia
- b) 周辺状況 : 周辺は住宅および学校用地からなる。電気、水道、下水およびガスは整備されている。
- c) 敷地面積・形状 : 広いバスターミナル (約 $5,000\text{m}^2$) の一部がサイト ($1,000\text{m}^2$) である。バスターミナルは、2 辺を Universidad Publica El Alto (UPEA) と Antonio Paredes Candia 高校・Villa Ingenio 初等学校に、残り 2 辺を道路に隣接している。サイトの敷地は緩やかな起伏がある。
- d) 評価 : 現在は広大な敷地のためバスターミナルからの騒音・排気ガスなどはさほど問題となっていないようだが、センター建設後にはターミナルと隣接する

ため学習環境として好ましくない。また、ターミナルの中における候補地の位置が特定されていない。



広大なバスターミナル。サイトはこの中の一角。後方の赤い建物はエル・アルト工科大学、右の建物は高校及び初等学校。

③ 候補サイト No. 3

- a) 位置 : Distrito 5 , zona Villa Ingenio, Unidad Vecinal 1 al lado de la U.E. Antonio Paredes Candia
- b) 周辺状況 : サイト No. 2 から 50m ほどの地点にある。周辺は住宅および学校用地からなる地域で、電気、水道、下水およびガスは整備されている。前面道路は未舗装である。
- c) 敷地面積・形状 : $60\text{m} \times 30\text{m} =$ 約 $1,800\text{m}^2$ 。道路沿いの平坦なサイトで、1 辺は学校に隣接している。
- d) 評価 : 前面道路は未舗装で、雨後のぬかるみ跡があり、雨季のアクセスは悪い。



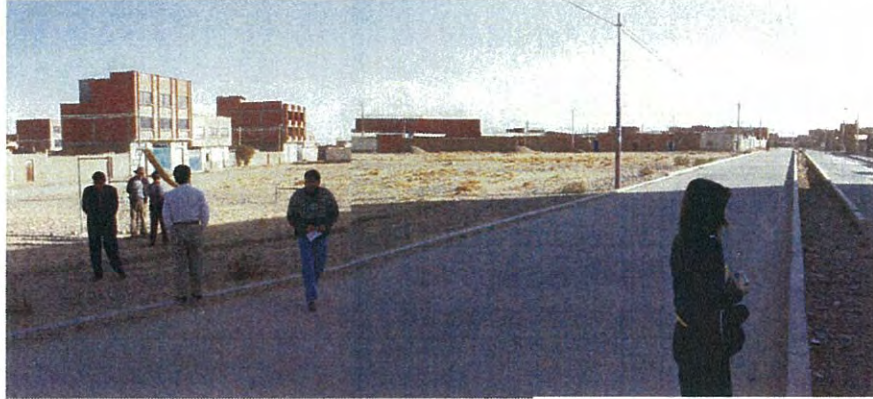
サイトから隣接する学校の塙(右)をみる。



サイト(右)に隣接する未舗装道路(左)。

④ 候補サイト No. 4

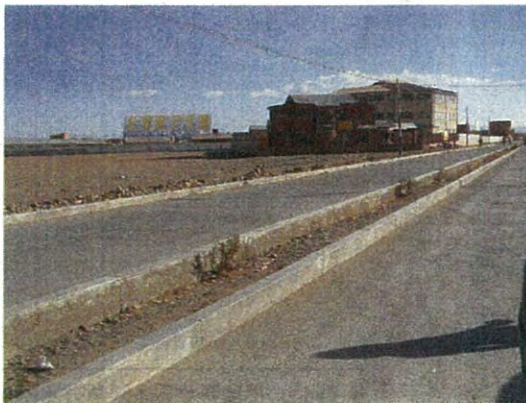
- a) 位置 : Distrito 4 , zona San José de Yunguyo
- b) 周辺状況 : 都市化された地区で、電気、水道、下水およびガスは整備されている。前面は舗装された幹線道路のため、アクセスは良好である。
- c) 敷地面積・形状 : 600m²。敷地は三角形で平坦である。
- d) 評価 : センター建設地としては面積が不足している。



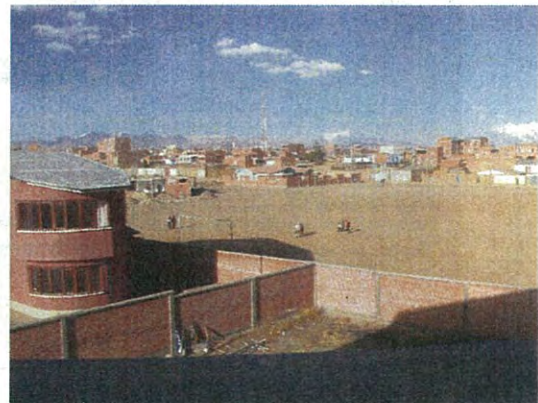
隣接する幹線道路からサイト(左から中央に延びる敷地)を見る。

⑤ 候補サイト No. 5

- a) 位置 : Distrito 4 , zona San José de Yunguyo, al lado del Centro de Recursos Pedagógicos (CRP) : Elizardo Perez
- b) 周辺状況 : 都市化された地区で、電気、水道、下水およびガスは整備されている。前面は舗装された幹線道路で、アクセスは良好である。Elizardo Perez 教育リソースセンター (CRP: Centro de Recursos Pedagógicos) と初等学校がサイトに近接している。
- c) 敷地面積・形状 : 平坦な、広大な敷地 (3,000m²) である。
- d) 評価 : 敷地形状・面積、環境およびアクセスの点から、建設適地である。



隣接する幹線道路からサイトを見る。サイト奥にある建物はCRP。



CRPの中から広大なサイトをみる。手前の赤い建物は本件とは関係のない民間施設。

2-3-4 コチャバンバ県の要請サイト状況

踏査したコチャバンバ県のセンター建設候補地は、コチャバンバ市で 2 ヶ所、さらにコチャバンバ市に隣接するサカバ市で 1 ヶ所の計 3 サイトである。

① 候補サイト No. 1: サカバ市

- a) 位置：コチャバンバ市からサカバ市に通じる幹線道路の Av. Villazon と Av. Chaparey 間を結ぶ支線 Av. Octaba 沿いにある。
- b) 周辺状況：サイト近傍の幹線道路 Av. Villazon 沿いは近年急速に都市化が進んでいる。但し、サイトは幹線道路から 300m ほど奥に入った、まだ住宅も建て込んでない閑静な場所である。また、近くに Copacabana 小学校がある。
- c) 敷地面積・形状：広大（約 3,000 m²）で平坦なサイトである。
- d) 評価：コチャバンバ市内では、アクセスの良い地点にある広大な敷地を確保するのはきわめて困難な状況にある中で、コチャバンバ市の INFOPER から車で 20～30 分の地点にある本サイトはアクセス、広さ、環境の面から候補地の中では最も良い条件を備えている。



サイト(左)の奥からみた Av. Octaba に通じる側道 (中央)。



側道からみた広大なサイト。

② 候補サイト No. 2: コチャバンバ市①

- a) 位置：Entre Giovanni Boccacio y W. Shakespeare -Distrital Cercado 1
- b) 周辺状況：新興の高級住宅地内の公園の一角にあり、コチャバンバ市・北部教育事務所の建物（竣工済みだが未だ移転していない）の隣地になる。アクセスは良好である。バス路線、電気、水道、下水の各サービスは整備されている。
- c) 敷地面積・形状：面積は 1,200 m² である。敷地は傾斜しており、また、北部教育事務所用地を囲んだ敷地形状のため、センター建設に必要な面積を確保できない。
- d) 評価：サイトは傾斜および形状から建設有効面積は少なくなるので、センター建設地としては面積が不足する。



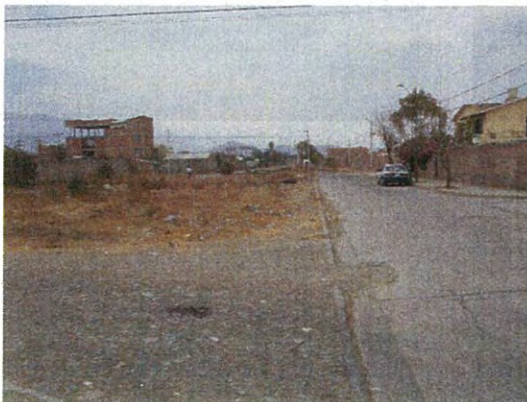
前面道路(手前)から見たサイト。サイト奥にある青い屋根の建物(中央)は、北部教育事務所の建物である。



サイト前面道路(右)から斜面となっているサイト。

③ 候補サイト No. 3: コチャバンバ市②

- a) 位置 : Entre calle Reverendo Maurice y Cayetano de la Llosa
- b) 周辺状況 : 住宅地内にあり、アクセスは良好で、バス路線、電気、水道、下水の各サービスは整備されている。道路を挟み、農業用水池の Koño Koño 池がある。
- c) 敷地面積・形状 : 1,000 m² ほどの面積はあるが、奥行は 18m しかない細長い形状である。
- d) 評価 : サイトの奥行は 18m しかないため、センター建設用地としては狭い。



前面道路(左)から見た狭いサイト奥行き。



前面道路からみたサイトの長手方向。

2-3-5 タリハ県の要請サイト状況

タリハ県のセンター候補地は、タリハ市内に2ヶ所あり、その内1ヶ所は INFOPER 本部建物であり、この建物の改修を要請している。

① 候補サイト No. 1: INFOPER 本部建物

- a) 位置：Av. Víctor Paz E., 0227
- b) 周辺状況：都市化された地区で、電気、水道、下水およびガスは整備されている。前面には舗装された幹線道路が走り、アクセスは良好である。
- c) 敷地面積・形状、既存建物：敷地面積 3,321 m² で、INFOPER の建物は、総2階建て1部地階からなる。現在は、建物1階の全ての部屋をタリハ国立大学医学部に貸している。2階は INFOPER 本部と INFOPER タリハ県事務所が使用している。
- d) 評価：1階居室の医学部への賃貸を中止し、1階を現職教員研修県センター、2階を中央センターとして使用する計画（INFOPER 本部の意向）である。中央センターをタリハ県に設置するという計画は別として、当施設の部屋数（大研修室を含む）は十分あり、若干の内装（壁塗装など）程度で、建物の改修の必要性はない。当該既存建物を県センターとして十分活用できる。



建物2階にある研修室。



中庭から見た1階の医学部教室。

② 候補サイト No. 2:

- a) 位置：INFOPER 本部から車で5分程度のタリハ市内中心地にある。
- b) 周辺状況：都市化された地区で、電気、水道、下水およびガスは整備されている。前面は舗装された幹線道路のため、アクセスは良好である。
- c) 敷地面積・形状、既存建物：県庁先住民農業開発局 (Dirección de Desarrollo Campesino y Rural) のある敷地 (2,642 m²) で、同開発局の建物が敷地の半分を占有している。
- d) 評価：本サイトは既存建物の占有部分を除くと、センター建設用地としては十分な面積が得られない。



サイト内で公園となっている場所がセンター建設候補地である。



サイト構内にある先住民農業開発局の建物。手前のスペースがセンター建設候補地である。

2-4 修正要請内容の妥当性の検討

2-4-1 修正要請内容の必要性

(1) 現職教員研修の現状からみた必要性

1) 現職教員研修体制の概況

① 現職教員研修体制

現職教員研修実施機関（INFOPER: Instituto de Formación Permanente）の研修対象者は学校長、県教育事務所（SEDUCA: Servicio Departamental de Educación）の所長・技官、市教育事務所の所長・技官である。

現職教員研修体制は、全般的に、INFOPER が SEDUCA の技官及び校長に、SEDUCA が市教育事務所の技官に研修を行い、市教育事務所の技官は教員を直接研修するカスケード方式をとっている。

なお、学校の管轄について説明を加える。ラパス市およびエル・アルト市では、1 学区につきおよそ 200 校の学校、地方農村部では 1 学区あたりに 10 ヶ所の核学校（地方農村部における一人教員学校群において核となる学校）を擁している。地方に適用されている核学校制度の特徴は、1 人教員（校長の資格がない教員）の学校を数校、核学校の校長が管理していることである。従って、10 ヶ所の核学校は、この小規模学校を含めると 40～50 の学校から構成されていることになる。

② INFOPER の研修内容

INFOPER の研修内容は、以下の 5 テーマが中心である。教科研修は教育顧問（AP: Asesoría Pedagógica）時代は実施していたが、INFOPER はこれまで実施していない。

今後、新教育法が制定され、新教育カリキュラムが開発される予定であり、現職教員研修プログラムはこれまでの研修内容から新教育カリキュラムに則った教科研修や教材開発が中心となると思われる。

- a) “変化に伴い行った学習プログラムの評価-学生モニタリング手帳の活用（生徒評価の技術研修であり、生徒評価手帳の使い方を指導）”
- b) “組織編成の文化および環境-教育改革のためのリーダーシップと協働（学校の文化、組織、雰囲気の改善を行い、教員の個人主義を集団協議主義に変え、上からの命令でなく、教員が他の教員に相談するように働きかけ、教員が協働して教育現場の判断を行うことを指導）”
- c) “新しい教育経験交流システム化（教員の良いアイデアや経験を他の教員に紹介普及させ、教員間で教育事例を交流できるシステムに編成するよう指導）”
- d) “教育運営”
- e) “価値観・民主主義・選挙”

2) 現職教員研修実施機関の変遷（教育顧問から現職教員研修実施機関へ）

指導主事（AP）は、教育改革によってボリビア全体で 1,500 人が養成された。AP は核学校および学校網（都市部の 4～5 の学校をグループ化している）を担当した。

AP の主たる役割は、

- a) 校長の指導
- b) 教員の研修

核学校および学校網の代表校でセミナーを実施し、また、学校網をいくつか集めてさらに大規模な研修を貸し会場で実施した。例えば、ラパス県のエル・アルト市では、NGO 施設、教会の付属施設、または市役所の講堂などを借りて研修を実施した。

c) 教員への直接指導

セミナーの後、指導案を作成して、AP が教員に授業を実際に示した。AP は毎日、学校を巡回していた。

AP による指導に関する第一の問題点は、教育改革に反対する教員や教育組織が AP の指導を受け入れなかったことである。AP は、教育省が一般教員から公募して選定し、4ヶ月間の土日を含めた宿泊研修を行って AP を養成した。また、AP を養成する AP 指導員については、教育改革に関わったスペイン、チリ、アルゼンチンおよびフランス等の外国人を大学が公募して養成した。

AP は当初、地方で受け入れられたものの、ラパスのアチュカチ村（チチカカ）のフェリッペ・キスぺ氏が AP を追放して以来、AP への拒否が広まった。AP は公募で選ばれた教員であるが、一般教員から見れば同レベルであるにもかかわらず指導的立場にあり高圧的であること、一般教員の 5 倍の給与待遇であったこと、などの感情的反発が問題を大きくした。このような背景により、AP からの指導内容を完全に無視して以前と同じ授業を続けたり、もしくは AP の指導自体を拒否する教員も現れた。

1953 年から 1994 年までは、授業は教員が主役であり、生徒は一方向的に教員の授業

を聞くだけであった。また、JICA が実施中の「学校教育の質向上プロジェクト」(PROMECA : Proyecto para Mejoramiento de la Calidad de la Enseñanza Escolar) のような、生徒を主役として教員はファシリテーター役を務める教授法は当時存在しなかった (PROMECA 開始後、その活動の評価は極めて高くなっている)。

一方、SEDUCA からは同じ一般教員であるという感情的反発が生じて問題化し、INFOPER も AP に反発するなど、学校以外でも AP に対する反発が生じた。

第二の問題点は、AP の巡回指導が不可能であったことである。AP が担当する学校数が 4~5 校程度なら指導効果はあったが、その 3 倍の 15 校をカバーしなければならない状況であった。

2003 年 4 月、AP 制度は廃止され、AP の代替として校長がその役割を担うこととなり、校長研修が主流となった。これに到った変遷は以下のとおりである。

1963 年に発足した農村部高等教育機関 (ISER) は、遠隔教育や大学院教員教育にも関わっていた。一方、AP 制度は教育省の教員養成局の下、1996 年の教育改革とともに動きだした。このため AP が主流となり、ISER の存在は弱くなった。しかし、ISER が 2000 年に校長養成を重視する機関として INFOPER に改組され、AP が 2003 年 4 月に廃止されてからは、AP に変わり INFOPER の存在感が強くなった。

今後の現職教員研修は、PROMECA のようなボリビアにとって新しい教授法の研修を強化する必要がある。

3) 研修の実施状況 (ラパス県)

①研修施設

INFOPER の研修は校長研修を主体としつつ、SEDUCA 技官の研修も行っている。INFOPER には、タリハ本部を除き独自に所有する研修施設がないため、初等学校や民間施設を借りて研修を行っている。例えば、エル・アルト市では、16 de Julio 初等学校の講堂を借用して研修を行っている。ラパス市では、Casa Libertad (適当なレベルの講堂を所有する比較的安価な民間の賃貸会場施設) を借用している。地方の校長研修は一般に、受講者となる校長の勤務校付近の初等学校で行っている。例えば、南北ユンガスやアルティプラーノ地域における校長研修は、コパカバーナ地区の学校で開催されている。

②校長研修

INFOPER は全国でおよそ 5,000 人の校長、うちラパス県では 2,000 人の校長を対象にして校長研修を行っている。ラパス県の初等学校には約 1,500 人の校長がおり、高校を合わせると校長の人数は 2,000 人となる。

ラパス県の INFOPER は 4 人 (総括調整員を含めると 5 人) で校長研修を行っている。一定期間で行う研修に関して、ラパス県では他県に比較すると、校長 (受講者) の人数に対する技官数 (講師) の人数は大幅に不足している。

研修参加者の校長は、地域的に 40 人~45 人くらいに分けられ、受講する。講師 1 人当たり 7 グループを受け持つと、講師 5 人×7 グループ×校長 40 人/グループ=1,400 校長となり、校長 2,000 人のうち 600 人が研修を受けられない計算となる。校

長研修は年間のごく一定期間に行っているため、オルロ県やタリハ本部 INFOPER の技官が応援出張するが、これにはコストがかかる。

学校に直接対応する市教育事務所技官 (Director Distrital de Educación: 学校区内の各校の活動を観察し、技術支援を行うのは市教育事務所が管轄) はラパス県に 68 人配置され、学校区を管轄している。この学校区の上に SEDUCA が位置し、市教育事務所を監督している。なお、SEDUCA の組織は運営管理室 (US: Unidad de Seguimiento)、教育技術支援室 (UATP: Unidad de Asistencia Técnico Pedagógica)、および管理室 (UAR: Unidad de Administración de Recursos) から構成されている。

現在、学校区内にある各学校は独自の活動、例えばカリキュラムを自分の地域に適した内容に編成することは可能である。ラパス県の例を挙げると、カラナビ地域 (ユンガス) の家庭科は、ココヤオレンジ等の農作物を中心とした農業技術教育を行っている。

ラパスにおける INFOPER の研修は大きく分けて 2 つある。一つは、教育方針など教育省の政策に関し、教育の新方針を地域に普及させるため前述の 5 テーマに関して SEDUCA 技官を対象とした研修を行っている。

二つめに、大学と協定を結び、INS の学生が大学に入学できる単位を付与する授業や diploma (単位受講修了証) 付与の授業を行っている。また、校長の資格付与のための diploma 付与の授業 (3~6 ヶ月コース) も行っている。一方、SEDUCA の UATP は、学校の要請に対応した研修を行っている。これは大学の教育学部では現職教員の資格付与やさらに上の学位授与を行っていないためである。参考に教員資格の取得方法を説明する。

高等師範学校 (INS) を卒業しても教員資格はとれず、INS の卒業証書が授与されるだけである。INS の卒業生は、教育省に雇われ代用教員となる。その後、2 年間地方で教鞭をとった後、教育省から教員資格が付与され、正教員となる。大卒の場合でも、正教員の資格は取れず、INS に再入学し、2 年間の地方での教鞭生活を経て教員資格をとらねばならない。INS 卒業のみの教員は、学士入学して 2 年間大学で勉強し、学士をとる。これは学士を持つと、教員昇進に良いほうに影響するためである。

(2) INFOPER の研修実績にもとづく現職教員研修センター網活動計画 (案)

1) 研修内容、講師数および参加者数の実績

INFOPER による研修実績を以下に示す (表 25 参照)。研修内容は、前項で示した 5 つのテーマである。

表 25 INFOPER による現職教員研修の実績

研修プログラム	実施年	参加者数
“教育運営”	2000-2001年	3,097人(校長)
“変換に伴い行った学習プログラムの評価- モニタリング手帳” 全国45ヶ所で166グループが実施	2004年	4,402人(校長および市教育事務 所長)
“組織編成の文化および環境-教育改革のた めのリーダーシップと協働” 全国51ヶ所で182グループが実施	2005年	5,068人 (校長、市教育事務所長および SEDUCA 技官)
“新しい教育経験交流システム化” 全国47ヶ所で186グループが実施	2005年	5,348人 (校長、市教育事務所長および SEDUCA 技官)
“教育運営の第2フェーズ” La Paz, Oruro, Santa Cruz および Tarija の4県の所長・技官を7グループに分けて実 施。	2005年	211人(SEDUCA 所長・技官およ び市教育事務所技官)
“価値観・民主主義・選挙” 全国34ヶ所で81グループが実施	2005年	1,747(高校校長、市教育事務所 長および SEDUCA 技官)

資料) JICA 予備調査団の質問表に対する回答

上記の研修実績を県別に示す(表26参照)。2005年には全国で約12,400人(延べ
人日でなく、単純人数)が研修を受けている。

表 26 INFOPER の県別現職教員研修参加者の人数

県	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
1. Chuquisaca	144	166	-	-	318	752
2. La Paz	209	648	-	-	1,300	3,361
3. Cochabamba	201	325	-	-	678	1,832
4. Oruro	100	173	-	-	223	654
5. Potosí	149	314	-	-	562	1,489
6. Tarija	102	74	-	-	245	657
7. Santa Cruz	201	363	-	-	1,134	2,684
8. Beni	132	83	-	-	275	729
9. Pando	58	19	-	-	67	216
合計	1,296	2,165	-	-	4,802	12,374

単位)人

注) 2000年、2001年および2004年の研修者参加者数は、集計上(実績人数と計画人数など)の違いから、表
2.4.1および表2.4.3の数値と異なっている。

資料) JICA調査団質問表に対する回答

また、各県における研修の状況を以下に示す（表 27 参照、詳細については付表 1.1～付表 1.9 参照のこと）。独自の研修施設がないため学校や民間施設を借りて研修を行っているが、付表に記されているようにコスト・時間を要し、また、研修実施に適切な借用施設がないのが問題である。

表 27 県別 INFOPER の研修実績

県	a) 変化に伴い行った学習プログラムの評価: 学生モニタリング手帳の活用			b) 組織編成の文化および環境: 教育改革のためのリーダーシップと協働			c) 新しい教育経験交流システム化		
	講師人数 (人)	参加者数 (人)/参加者グループ数	研修所数 (ヶ所)	講師人数 (人)	参加者数 (人)/参加者グループ数	研修所数 (ヶ所)	講師人数 (人)	参加者数 (人)/参加者グループ数	研修所数 (ヶ所)
1. Chuquisaca	4	318 (10)	4	5	338 (11)	3	5	342 (10)	3
2. La Paz	10	1,194 (45)	9	12	1,505 (43)	9	8	1,521 (43)	5
3. Cochabamba	5	605	不明	8	761	不明	7	794	不明
4. Oruro	2	226 (8)	不明	2	264 (9)	不明	2	270 (9)	不明
5. Potosí	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
6. Tarija	4	約300	不明	4	約300	不明	3	約300	不明
7. Santa Cruz	15	1,134 (38)	不明	15	1,443 (48)	不明	12	1,444 (45)	不明
8. Beni	4	304	不明	4	282	不明	4	328	不明
9. Pando	2	62 (4)	3	2	89 (4)	3	1	92 (4)	3

県	d) 教育運営			e) 価値観・民主主義・選挙		
	講師人数 (人)	参加者数 (人)/参加者グループ数	研修所数 (ヶ所)	講師人数 (人)	参加者数 (人)/参加者グループ数	研修所数 (ヶ所)
1. Chuquisaca	不明	不明	不明	2	153 (5)	3
2. La Paz	5	81 (3)	3	7	657 (24)	3
3. Cochabamba	1		不明	3	277	不明
4. Oruro	不明	不明	不明	不明	112 (3)	不明
5. Potosí	不明	不明	不明	不明	不明	不明
6. Tarija	5	22	不明	3	約300	不明
7. Santa Cruz	不明	不明	不明	不明	522 (16)	不明
8. Beni	不明	不明	不明	4	124	不明
9. Pando	不明	不明	不明	1	35 (2)	1

資料) JICA調査団質問表に対する回答

2) 研修教材の開発状況

上記研修のために開発された教材は、以下のとおりである（表 2.4.4 参照）。

表 28 研修教材の開発実績

研修テーマ	開発された研修内容および教材
a) 変化に伴い行った学習プログラムの評価: 学生モニタリング手帳の活用	研修内容は、①変容期における評価の特徴、②初期管理の評価解析、③教室におけるカリキュラム開発、および④生徒の学習管理と記録である。 教材は、①学生モニタリング手帳、②留年や進級に関する書類である。
b) 組織編成の文化および環境: 教育改革のためのリーダーシップと協働	研修内容は、①学校における教育行政管理の実践、②学ぶ組織、③協働とチームによる作業の土壌、④学ぶ組織における校長の役割と機能、⑤直接参加と民主的活動、⑥教育プロジェクトにおける詳細計画、実施及び評価におけるリーダーの役割である。
c) 新しい教育経験交流システム化	研修内容は、①教員にとってのシステム化の考えと重要性、②システム化の構築デザイン、③システム化の運用方法、④システム化の道具である。 教材は、新しい教育経験交流システム化のガイドラインである。
d) 教育運営	モジュール(1): ①教育のコンテキスト、②教育行政概要、③教育計画、④学校組織、⑤学校指揮系統、⑥学校の運営管理・評価 モジュール(2): ①教育組織管理、②カリキュラム管理、③多文化教育・多言語教育、④代替教育（ノンフォーマル教育）、⑤大衆参加である。
e) 価値観・民主主義・選挙	研修内容は、①民主主義と教育の相関、②民主主義と市民の価値、③選挙における詳しい情報に基づく参加である。 教材は、①市民教育のマニュアル、②市民の義務と権利の小冊子、③選挙システムの小冊子、④民主主義および青少年の価値の小冊子である。

資料) JICA調査団質問表に対する回答

3) INFOPER による現職教員研修センター網活動計画(案)

教育文化省下の INFOPER は、現職教員研修センターの活動計画(案)を作成している。新教育法が未だ定まっておらず、同法に基づく学校教育カリキュラムが作成されていない段階ではあるが、新教育法(案)をもとに今後必要となる現職教員の研修テーマを、INFOPER 本部が検討した試案である。想定している研修テーマは以下に示すとおりであるが、研修内容の詳細は年内に検討し、決定する予定である。

- a) 集中研修: 優秀な教員、校長、技官および教員に対して休暇時に行われる 1～2 週間で集中して行う研修である。
- b) 常時研修: 一般研修(Formación General)、教科研修(Formación Disciplinar)、教育技術研修(Formación Didáctica)、個人特別研修(Formación Personal) および教材利用法研修(Formación Instrumental) の各参加型研修は、教員を対象に行う。

INFOPER は、当研修テーマを実施する研修計画の活動パターン（月別週別研修参加者数）を、集中研修は大規模なセミナー形式、常時研修は県内教員の 45%程度の教員を対象にした参加型研修と想定して作成している。なお、他県の研修参加者の推定は、タリハ県に対する当該県の教員数比率を基に、同活動パターンに応じた人数を単純に割り振ったものである。参加者数の推定値は、2005 年の実績値の約 13 倍に跳ね上がっている。これは研修参加必要人数と理解できるが、研修内容の検討とともに、講師人数に対する適正参加者数を詳細に検討する必要がある。

表 29 現職教員研修センターの活動計画（案）

県	教員数	1月				2月				3月				4月			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
Tarija	4,899	0	1,081	0	203	1,081	0	143	35	143	70	105	35	70	70	35	70
Chuquisaca	7,001	0	1,545	0	290	1,545	0	204	50	204	100	150	50	100	100	50	100
La Paz	30,431	0	6,716	0	1,260	6,716	0	885	216	888	435	651	216	435	435	216	435
Cochabamba	17,201	0	3,796	0	712	3,796	0	500	122	502	246	368	122	246	246	122	246
Oruro	6,244	0	1,378	0	258	1,378	0	181	44	182	89	134	44	89	89	44	89
Potosí	10,815	0	2,387	0	448	2,387	0	315	77	316	155	231	77	155	155	77	155
Santa Cruz	22,160	0	4,891	0	918	4,891	0	645	157	647	317	474	157	317	317	157	317
Beni	5,594	0	1,235	0	232	1,235	0	163	40	163	80	120	40	80	80	40	80
Pando	955	0	211	0	40	211	0	28	7	28	14	20	7	14	14	7	14
全県	105,300	0	23,240	0	4,361	23,240	0	3,064	748	3,073	1,506	2,253	748	1,506	1,506	748	1,506

県	教員数	5月				6月				7月				8月			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
Tarija	4,899	70	35	70	35	276	203	70	35	70	1,081	1,081	70	70	35	70	35
Chuquisaca	7,001	100	50	100	50	394	290	100	50	100	1,545	1,545	100	100	50	100	50
La Paz	30,431	435	216	435	216	1,713	1,260	435	216	435	6,716	6,716	435	435	216	435	216
Cochabamba	17,201	246	122	246	122	968	712	246	122	246	3,796	3,786	246	246	122	246	122
Oruro	6,244	89	44	89	44	351	258	89	44	89	1,378	1,378	89	89	44	89	44
Potosí	10,815	155	77	155	77	609	448	155	77	155	2,387	2,387	155	155	77	155	77
Santa Cruz	22,160	317	157	317	157	1,247	918	317	157	317	4,891	4,891	317	317	157	317	157
Beni	5,594	80	40	80	40	315	232	80	40	80	1,235	1,235	80	80	40	80	40
Pando	955	14	7	14	7	54	40	14	7	14	211	211	14	14	7	14	7
全県	105,300	1,506	748	1,506	748	5,927	4,361	1,506	748	1,506	23,240	23,230	1,506	1,506	748	1,506	748

県	教員数	9月				10月				11月				12月				合計
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
Tarija	4,899	70	70	143	35	70	35	35	70	70	35	178	70	143	70	0	0	7,541
Chuquisaca	7,001	100	100	204	50	100	50	50	100	100	50	254	100	204	100	0	0	10,774
La Paz	30,431	435	435	885	216	435	216	216	435	435	216	1,104	435	888	435	0	0	46,820
Cochabamba	17,201	246	246	500	122	246	122	122	246	246	122	624	246	502	246	0	0	26,454
Oruro	6,244	89	89	181	44	89	44	44	89	89	44	226	89	182	89	0	0	9,595
Potosí	10,815	155	155	315	77	155	77	77	155	155	77	393	155	316	155	0	0	16,113
Santa Cruz	22,160	317	317	645	157	317	157	157	317	317	157	805	317	647	317	0	0	34,100
Beni	5,594	80	80	163	40	80	40	40	80	80	40	203	80	163	80	0	0	8,614
Pando	955	14	14	28	7	14	7	7	14	14	7	35	14	28	14	0	0	1,481
全県	105,300	1,506	1,506	3,064	748	1,506	748	748	1,506	1,506	748	3,822	1,506	3,073	1,506	0	0	161,492

資料) INFOPERタリハ本部作成

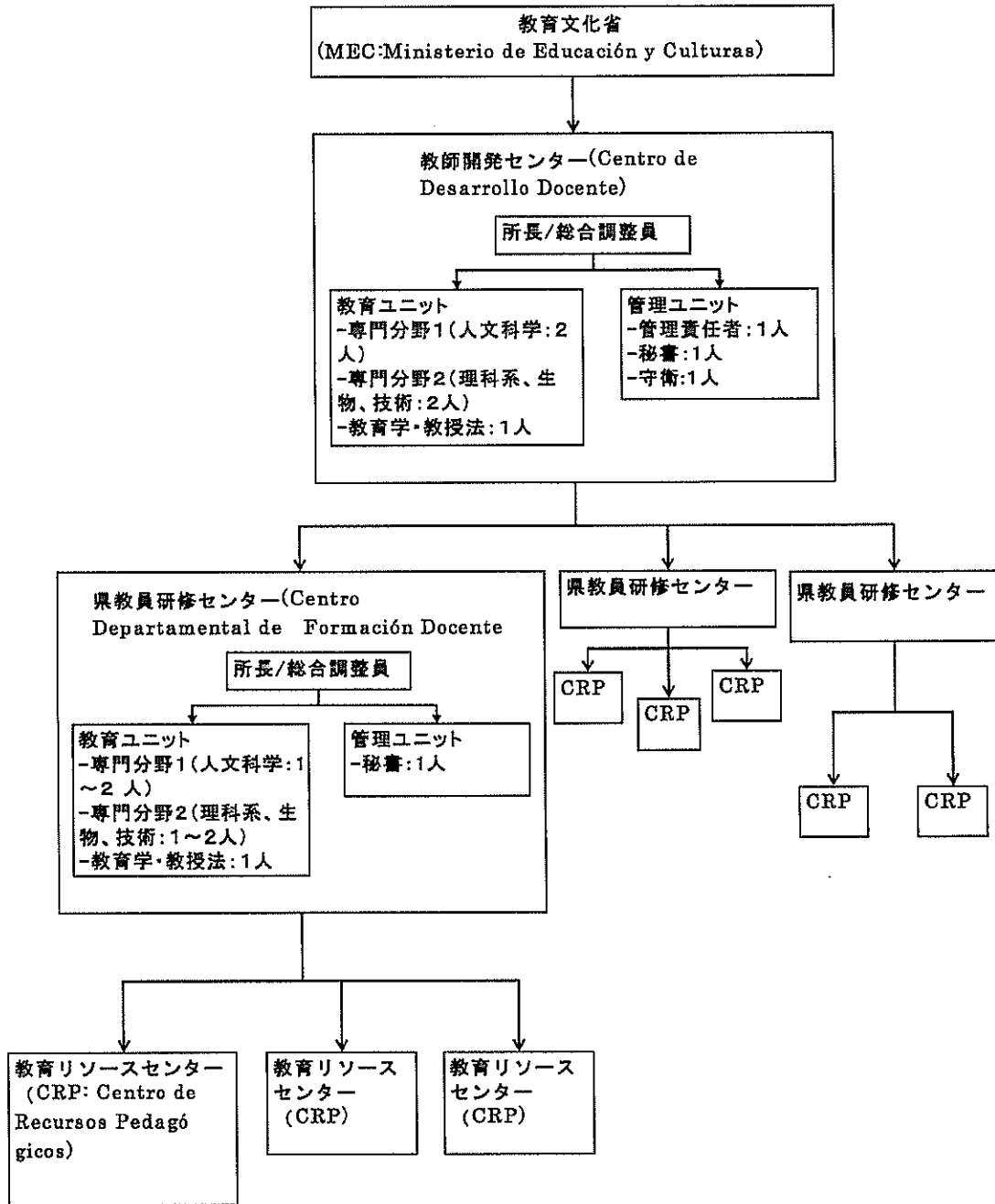
単位) 人数

注) 本年間研修活動計画は、今後必要となる研修内容を検討し、タリハ県における研修研修実績を参考に研修参加人数を推定した。他県の研修参加人数は、タリハ県の教員数に対する当該県の教員数比率より推定した。研修内容は、①集中研修および②常時研修からなる。①は、優秀な教員、校長、技官および教員に対して休暇時に行われる1~2週間の集中研修である。②は、一般研修(Formación General)、教科研修(Formación Disciplinar)、教育技術研修(Formación Didáctica)、個人特別研修(Formación Personal)および教材利用法研修(Formación Instrumental)の各参加型研修からなる。

2-4-2 修正要請内容の妥当性

(1) 組織機能

現職教員研修センター網の組織を以下に示す（図8参照）。



資料) 修正要請書より作成

図8 現職教員研修センター網の組織図

教育文化省の下に、全国レベルの活動を行う教師開発センターが設置され、同センターは教育の研究開発を行う。

県教育研修センターで計画している研修のハイライトは、INFOPER がこれまで行ってこなかった次の2つの研修である。

a) 教育リソースセンター（CRP）の指導員の研修

教育文化省は、学校教育教科の向上に関する指導員業務について地域の優秀な教員と契約し、この教員を CRP 指導員として養成するため、県教育研修センターにて研修を受けさせる。

b) 教員研修

教員への教科研修、教育技術研修、個人特別研修および教材利用法研修などを行う。

なお、県教育研修センターにおいては、教材開発や研修カリキュラム開発などがふくまれているため、センターの名称を県教師開発センターとする。また、教師開発センターは中央教師開発センターとする。

ここで、上記の CRP は、現職教員の研修所、学校網や核学校に装備できない教育機材（コンピューターなど）を使用して生徒が学校ではできない学習（実験など）の場、さらに、地域住民のコミュニティセンターとしてさまざまな趣味・教養活動の場、としてその利用はさまざまである。CRP 施設を新設する場合は、一般に、生産社会投資基金（FPS：Fondo Nacional de Inversión Productiva y Social、ボリビアの地方における公共事業の実施主体である）が建設を担当している。竣工後 18 ヶ月間の管理費を国が持ち、この間に持続的な運営が可能な組織・機関を探し、運営能力ありと判断された組織に運営を委任している。

(2) 要員計画

教育文化省は、図 9 で示したように教師開発センターの職員配置は 9 人、各県教師開発センターでは 5～7 人を計画している。現職教員研修センター網の人員数は、現在 INFOPER が有している人員枠（52 人）内で計画しているため、現実的である（表 28 参照）。しかし、前述の現職教員研修センター活動計画（案）が、この人員枠で対応可能な活動計画であるかを再検討する必要がある。

表 30 現職教員研修センター網の人員配置計画

センターの構成	現職教員研修センターへの人員配置計画	INFOPER の現在の要員数（及び人員枠）
教師開発センター	9 人	
県教師開発センター	43 人	
合計	52 人	32 人（52 人枠）

資料) JICA 調査団質問表に対する回答

現職教員研修センター網の要員は、INFOPER から移行する計画である。INFOPER の要員の採用条件は a) 研修の実績があること、および b) 教員の資格を有していること

である。従って、INFOPERの要員の経歴は、研修実績があるために以前は教育顧問(AP)または農村部高等教育機関(ISER)職員であった、また、教育資格を持っているためにはINS卒業生であり多くは大卒者でもある。以上より、INFOPER要員は、現職教員センター要員としての技術水準を保持していると判断される。

(3) 予算

INFOPERの研修予算は、以下のとおりである。研修参加者人数は、2004年から2005年は2.5倍に増加しており、予算執行額は31倍に膨れ上がっている。現職教員研修の需要増に応じて、予算がついている。

表 31 INFOPERの研修テーマ別予算

研修テーマ	年次	予算執行金額 (Bs.)	研修参加者数 (人)	参加者1人当たり コスト (Bs./人)
変化に伴い行った学習プログラムの評価:学生モニタリング手帳の活用	2004年	112,798	4,402	25
組織編成の文化および環境:教育改革のためのリーダーシップと協働	2005年	1,248,151	5,068	246
新しい教育経験交流システム化	2005年	1,308,791	5,348	244
校長に対する教育管理プログラム(第2フェーズ)	2005年	347,295	211	1,645
価値観・民主主義・選挙	2005年	385,172	1,747	220
INFOPERの研修活動に対する支援	2005年	218,385	不明	
	2005年合計	3,507,794		

資料) JICA調査団質問表に対する回答